

令和5年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立天神小学校

1 自己評価書

教育目標	豊かな人間性を培い、たくましく生き抜く天神の子の育成						
基本方針	天神小学校の歴史と伝統を受け継ぎ、地域と協働して「生きる力」をはぐくむ教育を推進し、社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、心身ともに健やかで、主体性と実践力、郷土愛を身に付けた児童の育成に努める。						
本年度重点目標	1.特色ある学校づくりの推進 2.確かな学力を育てる教育の推進 3.豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進 4.互いの人権を尊重する教育の推進と児童生徒の健全育成 5.教職員の資質・能力の向上と学校組織の活性化 6.安全・安心で充実した教育環境の整備						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	C C	C	
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C B B	B	
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	C B	B	
			一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B	
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C B	C	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C C B	C	
	(成果と課題) ○講義型一斉授業からの脱却を図り、児童が主体的に授業を構成する学びへと全校で取り組んだ。 ○校内研修を通して、教職員全体で日々授業改善に努めることができた。 ●全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用について、課題が残る。						
	(改善策等) ○対話活動を充実させる。 ○全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の結果について分析し、日々の授業改善に生かす。 ○放課後補充学習の在り方について再検討する。						
	評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
	生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C B A	B
		②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B
				不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B B C	B
				いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B B C	B
③		基本的生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B B B	B	
④		自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童アンケート	B B	B	
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童アンケート	B B		
(成果と課題) ○少しの問題であっても見過ごさず、自ら解決しようとする児童が増えた。 ○児童の様子や心配な事象を教職員間で共有し、組織的に対応することができた。 ●人間関係が固定化されており、傍観者の立場にいる児童の意識を変えていくことが難しい。							
(改善策等) ○児童の問題行動等の情報を職員会議や校内研修はもとより、日常的な情報交換を今以上に実施していく。 ○日々の児童の様子をマイナス面だけではなくプラス面も積極的に保護者に伝えていく。 ○下校指導や校外指導を徹底していく。							

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	仕事のやりがい重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、 <u>教職員の意識改革</u> に努めた。	・教師アンケート	D	C
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C	
	②	働きやすい環境づくり	新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣例にとらわれることなく取り組んだ。	・教師アンケート	C	C
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
	③	他の教職員のサポート体制の充実	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	C	C
	(成果と課題) ○業務改善と教育活動の回復とのバランスをとりながら働きやすい環境づくりに努め、一定の効果が見られた。 ●長時間労働が常態化している職員が一定数いる。					
(改善策等) ○時間外労働の定義とウェルビーイングに対する理解の深化 ○経験の浅い教員に対する組織的な学級指導・教科指導						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	C	B
				・教師アンケート	B	
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	B	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	B	
	③	来校・相談体制	保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	B	
(成果と課題) ○学校運営協議会に児童が参画し、共によりより学校づくりについて話し合う機会を確保できた。 ●保護者からの信頼は一定数得られたが、学校の教育方針や活動について更に丁寧に発信していく必要がある。						
(改善策等) ○学校運営協議会で児童から提案のあった「地域とともに活動する機会を増やしていく」ことを実践していく。 ○学級通信、学校通信等を通じて保護者へ丁寧に情報発信を続けていく。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満